

【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 上顎前歯部のimplant症例

演者名 園木 誠

日 付 2007年8月28日

keywords

1. 審美性の回復
2. narrow implant

抄 録

かつて implant治療は特殊なものであったが、現在ではその長期的予後から予知性のある治療の1つのoptionと認められ、われわれ臨床家が一般的に行う治療と変遷してきている。

これらは、先達の絶え間ない観察・努力の結果であり 欠損歯列拡大を防止する治療の1つとして、implantを考慮すべき段階にきていると思われる。

さて、臨床において 欠損歯列にいたるはじまりとして歯根破折はよく遭遇することと思いますが、

今回、 保存不可能部位であった上顎左側中切歯を抜歯後診断用wax-up を行いimplantの埋入位置・深度を決定し、いわゆる top-down treatmentを行った症例をご報告いたします。

皆様 諸先生方のご意見を頂戴いたしたく 今回発表させていただくことになりました。

よろしくご指導お願いいたします。